

日時：5月26日(日) 14時開演

場所：早稲田大学 大隈大講堂

(予約不要・無料)

主催：早稲田大学政治経済学術院

一般財団法人山本美香記念財団

山本美香記念国際ジャーナリスト賞創設シンポジウム
ザ・ミッション ～山本美香 戦場からの問い～

◎基調講演

佐藤和孝 ジャパンプレス代表

◎パネルディスカッション

(選考委員・50音順)

最相葉月 ノンフィクションライター

野中章弘 アジアプレス代表

藤田博司 朝日新聞「報道と人権委員会」委員

船戸与一 作家

吉田敏浩 ジャーナリスト



問合わせ：

一般財団法人 山本美香記念財団 事務局

〒167-0043 東京都杉並区上荻1-5-2-6F

TEL:03-6915-1346

FAX:03-6915-1349

E-Mail: office-a@mymf.or.jp

URL: <http://www.mymf.or.jp/>

一般財団法人
山本美香記念財団
MIKA YAMAMOTO
MEMORIAL
FOUNDATION



ザ・ミッション

「山本美香 戦場からの問い」

日時：5月26日(日) 14時開演
(13時半受付開始)

場所：早稲田大学 大隈大講堂
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

主催：早稲田大学政治経済学術院
一般財団法人山本美香記念財団

基調講演

「生きた、愛した、伝えた! ~私と山本の17年戦争~」

佐藤和孝(さとう かずたか)

1956年、北海道生まれ。1980年旧ソ連軍のアフガニスタン侵攻以来、ほぼ毎年現地を訪れ継続的に取材。2003年3月イラク戦争開始直前にバグダッド入りし、日本テレビのニュース番組に200回を超える中継。他に旧ユーゴスラビア紛争、フィリピン、チェチェン、アルジェリア、ウガンダ、インドネシアなど20カ国以上の紛争地を取材。2003年度ポーン・上田記念国際記者賞特別賞受賞。



選考委員



最相葉月(さいしょう はづき)

1963年、神戸市出身。ノンフィクションライター。関西学院大学法学部卒業。科学技術と人間の関係性、教育、災害などをテーマに取材を行う。近年の関心は精神医療。主著に「絶対音感」「青いバラ」「星新一」で大佛次郎賞、講談社ノンフィクション賞受賞。近著は兵庫県こころのケアセンター長、加藤寛医師との共著「心のケア 阪神淡路大震災から東北へ」。



野中章弘(のなか あきひろ)

1953年、兵庫県出身。ジャーナリスト。アジアプレス・インターナショナル代表。早稲田大学(政治経済学術院/ジャーナリズム大学院)教員。80年代より、インドシナ紛争、ビルマ、アフガン内戦、東ティモール独立闘争や朝鮮半島、中国情勢の取材を続ける。90年より、ビデオジャーナリスト的な手法でニュース、ドキュメンタリーの制作を行う。近年は大学でジャーナリスト養成教育に注力。



藤田博司(ふじた ひろし)

1937年、香川県生まれ。共同通信社入社後、サイゴン(現ホーチム)特派員、ニューヨーク支局長、ワシントン支局長、編集委員、論説副委員長などを歴任。元上智大学教授。現在、朝日新聞「報道と人権委員会」委員、ポーン・上田記念国際記者賞委員会常任幹事。著書に『アメリカのジャーナリズム』(岩波新書)など。



船戸与一(ふなと よいち)

1944年、山口県下関市生まれ。世界の紛争地帯を取材し、冒険小説の新たなジャンルを確立。『山猫の夏』で吉川英治文学新人賞と日本冒険小説協会大賞、『砂のクロニクル』で山本周五郎賞ほか、『虹の谷の五月』で直木賞など著書・受賞歴多数。小説の他に『国家と犯罪』、『叛アメリカ史』(豊浦志朗名)などの国際ルポルタージュがある。



吉田敏浩(よしだ としひろ)

1957年生まれ。ジャーナリスト。ビルマの少数民族の自治権闘争と生活・文化を取材した『森の回廊』で大宅社ノンフィクション賞を受賞。近年は戦争のできる国に変わるおそれのある日本の現状を取材。著書に、『密約 日米地位協定と米兵犯罪』『赤紙と徴兵』『沖繩 日本で最も戦場に近い場所』『反空爆の思想』など。

問い合わせ：
一般財団法人 山本美香記念財団 事務局
〒167-0043 東京都杉並区上荻1-5-2-6F
TEL:03-6915-1346 FAX:03-6915-1349
E-Mail: office-a@mymf.or.jp
URL: http://www.mymf.or.jp/

会場アクセス：
早稲田大学大隈講堂 169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
◎JR山手線・西武新宿線(高田馬場駅 徒歩20分)
◎地下鉄東西線(早稲田駅 徒歩5分)
◎都バス(学バス)(高田馬場駅-早大正門)
◎都電荒川線(早稲田駅 徒歩5分)

山本美香賞に

山本美香さんが伝える紛争地の女性や子どもたちの表情はいつも凛としていた。恐怖と怒り、憎しみと悲しみを乗り越え、生きる覚悟を決めた人だけがもつ瞳の強さがあった。弱者と呼ばれる彼らは本当は弱者ではなく、誰ひとり、人としての誇りまで失ってはいない。損なわれてもいい命などどこにかけがえのないものだったかと痛感している。

今回、本賞を通じて、新たなまなざしと出会う機会をいただけることになった。道端に咲く花に目を留める繊細さと、暴力を許さぬ勇敢さと、真実を見極めようとする探究心をもつ次代のジャーナリストの応募を願っている。ただし、命を賭しても、命を落としてはいけない。危機管理を完全に調べ、緊張感を持続させる。シリアのアレッポを歩く直前、それまでつけていたピンクのスカーフをはずすことを忘れていなかった美香さんのプロ意識を覚えてほしい。

最相葉月

「怒り」と「共感」の人

この社会で埋もれていく声なき声に耳を傾け、闇の中でも輝きを失わない人間の精神に光を当てる――。

山本美香さんはこのようなジャーナリストのミッションを心に刻みながら、45年の生涯を駆け抜けていった。彼女はもっとも不条理で過酷な現実を生み出し続けている戦争や紛争の現場に立ち、その不条理への「怒り」とそこで生きる人びとへの「共感」を行動の原点としてきた。

今も世界のいたるところで、山本と同じような思いを抱きながら、戦争や紛争、さまざまな社会の矛盾と向き合い、それを記録して伝えようとする多くのジャーナリストたちがいる。彼らの存在はわたしたちに大きな希望を与えている。

本賞は有名、無名を問わず、そのような「志」を貫く力と人間への「優しさ」を併せ持つジャーナリストたちのものである。「この社会を少しでもよくしていきたい」と願った山本美香の意志を受け継ぐ人々との出会いを心から望む。

野中章弘

山本美香さんとポーン・上田賞

山本美香さんは、2003年度のポーン・上田記念国際記者賞特別賞を受賞された。この賞は国際報道の分野で優れた業績をあげたジャーナリスト個人に贈られるもので、1950年の創設以降、主に在京新聞社や放送局に所属する記者の仕事が選考の対象になっていた。

しかし米軍のイラク侵攻が始まった2003年度のポーン・上田賞選考委員会ははたと困惑した。この国際報道の大イベントの現場に立ち会った日本のメディアの記者がいなかったからだ。大手各社の記者に代わってバグダッドからニュースを送り続けたのは、山本さんらごく少数のフリーランスのジャーナリストだった。その年のポーン・上田賞は半世紀を超える伝統を破って初めて、山本さんと同僚

の佐藤和孝さん、綿井健陽さんの三人のフリーランスの記者に贈られた。その後の山本さんの報道現場で活躍する姿を見るにつけ、あのと選考委員会が迷うことなく異例の贈賞を決断したことはまちがっていなかったと、委員の一人としていまもひそかに誇らしく思っている。

藤田博司

新たな職業ジャーナリストの出現を

二十世紀型の国家間戦争とちがい、内戦はいつはじまったのかを規定することも、いつごろ終わるのかを予測することもきわめて厄介で、その方法論は仮説すら試みられていない。しかも、冷戦時代に大量生産された余剰武器がそこに流れ込む。山本美香はそういう内戦の地シリアで取材中に銃撃されて死んだ。国際的紛争地からの報道を十五年以上つづけて来たヴェテランがVTRカメラを手にしたまま戦死したのだ。

そのカメラはこれまで内戦の地で暮す住民たちの悲哀や苦悩だけでなく、その遅しさも同時に捉えて来た。これには経験が要る。たまさかの目撃者では明らかに限界があるのだ。職業ジャーナリストでなければ無理なのである。もちろん、どれほど秀れた報告であろうと、内戦の全容を掴めるわけがない。だが、わたしたちは山本美香の映像と高論によってその一端を窺うことができたのだ。シリアでの死は残念至極だが、その志を受け継ごうとする予備軍は相当数いるはずだ。新たな職業ジャーナリストの出現を待つかない。

船戸与一

問いの存在を感受して

山本美香さんの戦場取材・戦争報道の根底にあったものは何か。

それは、このようなものではなかっただろうか。

戦争の渦中で傷つき、倒れる人びとの立場から見たら、この現実、この世界は、この歴史はどう見えるのかと、思念を凝らすこと。もしも自分が同じ立場におかれたら、何を思い、何を求め、何を試みるのだろうか、身につまされながら自問自答を繰り返すこと。そして、ジャーナリストとして何をすべきか、何ができるのかと、心揺さぶられながら反芻しつづけること。

きっとこのような問いを抱きつづけながら、最後まで歩みつづけたにちがいない。

山本美香さんが残した映像、写真、文章を通して、このような問いの存在を感受し、自らもまた自らの切実な問いを抱いて歩もうとする人たちが、この賞に心を寄せられることを願う。

吉田敏浩